

5-4 東海地方の微小地震の分布 (1991年5月1日～1991年10月31日)

Distribution of Microearthquakes in Tokai District (May 1, 1991 – Oct. 31, 1991)

名古屋大学理学部

School of Science, Nagoya University

前報¹⁾に引き続いて1991年5月1日より1991年10月31日までの6ヶ月間における東海地方の微小地震活動について報告する。

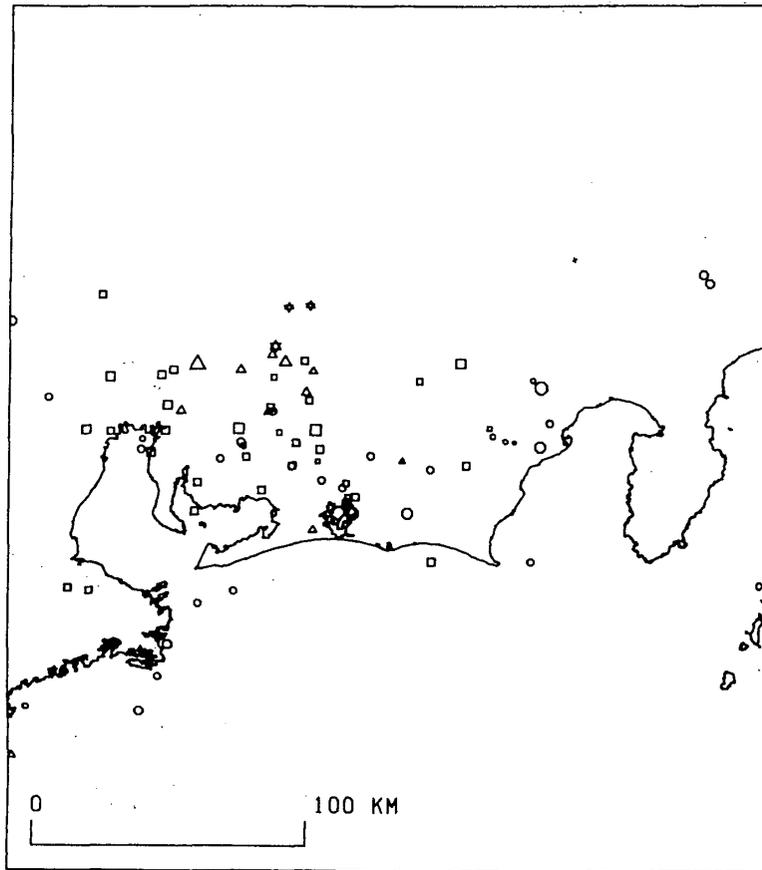
第1図は1991年10月31日までの6ヶ月間に名古屋大学理学部の地震テレメータ観測網によって観測された20km未満の深さで発生している震央を3ヶ月ずつの期間に分けて示したものである。第2図は同じ期間に20km以深から80km未満の深さで発生した地震の震央を示したものである。

以下にその特徴について述べる。

- (1) この期間を通じて愛知・岐阜・三重県等西部地域内での地震は5月11日愛知県北西部でM3.9, 6月19日三重県北部でM3.6, 6月28日愛知県東部でM3.4, 7月9日愛知県中部でM3.1, 8月8日愛知岐阜県境付近でM3.0, 8月27日愛知県東部でM3.0等比較的に静穏であった。9月には9日愛知県東部でM3.2, 21日愛知静岡県境付近M3.1を含む小規模群発地震活動, 24日愛知県岐阜県境付近でM3.2やや活動的であった。その後は10月15日同県境付近でのM3.0の地震以外は静穏になっている。これに対して静岡県内ではほぼ中央部で5月11日にM3.9, 8月2日M3.1, 10月21日M3.0, 西部地域で6月11日M3.0, 7月1日M3.0, 7月6日M3.5, 7月28日M3.3, 清水市付近で10月21日にM3.0地震が発生したがこの期間は静穏であった。
- (2) 長野県西部地域の地震活動はほぼ定常的であるが, 10月5日M4.0, 10月22日M3.2, 以外は静穏であった。
- (3) 乗鞍岳南西部の群発地震活動域では5月5日M3.1, 5月17日M3.5等5月はやや活動的であったが, 以降は定常的活動は続いているものの微小地震活動のみである。
- (4) 4月23日からの新島南西沖での群発地震活動は5月まで活動が見られたが, その後静穏となり, 10月18日から再び活動が続いている。
- (5) 東海道はるか沖で9月3日17時45分にM6.3の地震が発生し多くの余震を伴っている。

参 考 文 献

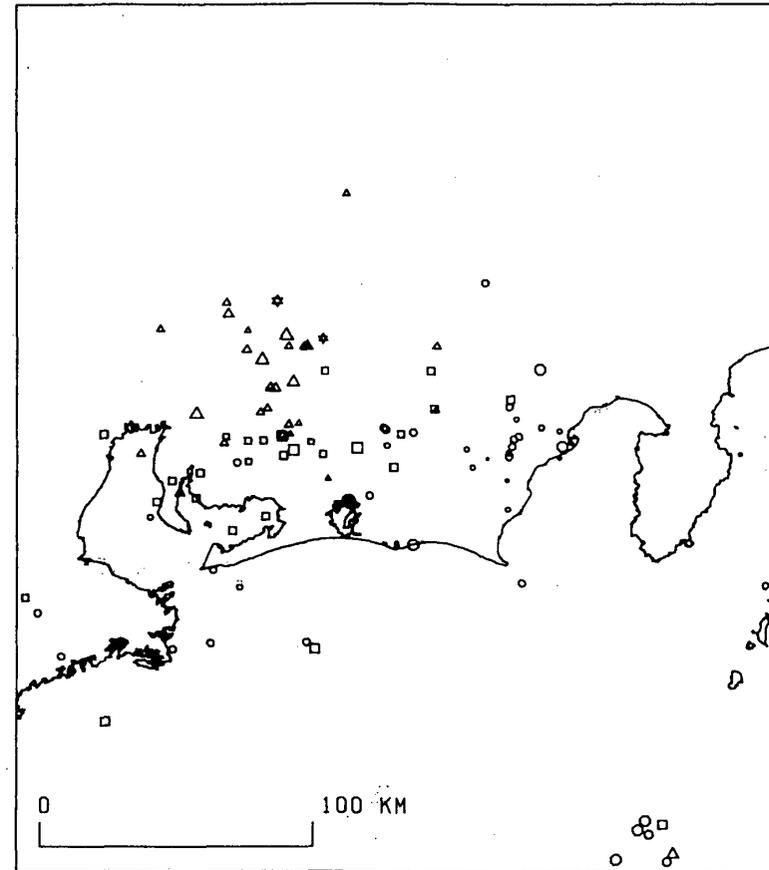
- 1) 名古屋大学理学部：東海地方の微小地震の分布 (1990年11月1日～1991年4月30日), 連絡会報, 46 (1991), 240-242.



N = 91

DEPTH 20 30 40 50 80 KM MAG. 1 2 3 4
 ○ □ △ ☆ · ○ ○ ○

1991 5 1 - 1991 7 31



N = 109

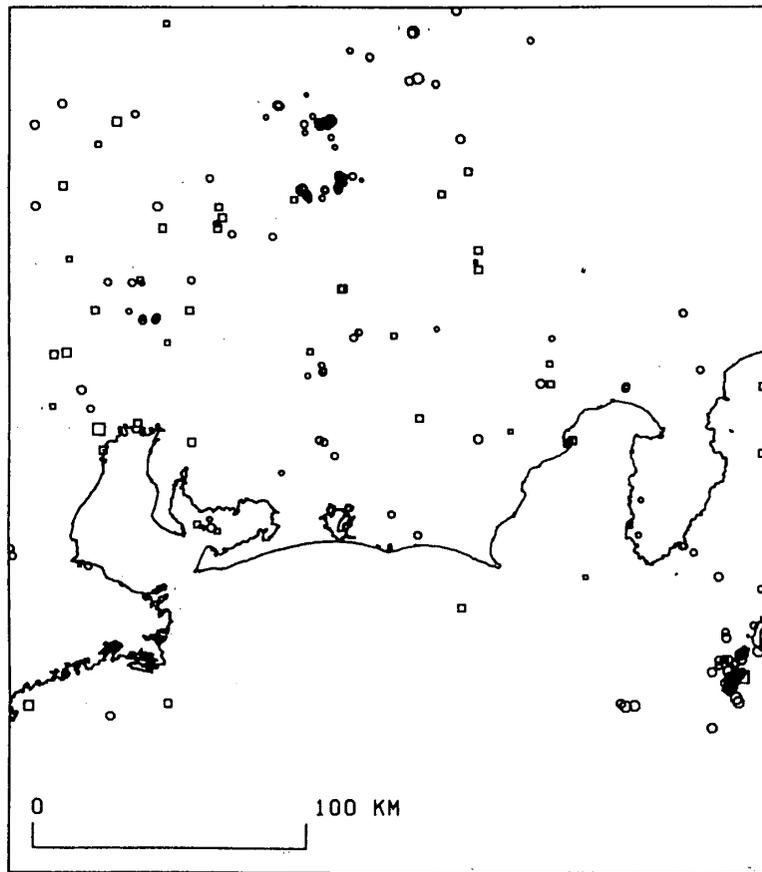
DEPTH 20 30 40 50 80 KM MAG. 1 2 3 4
 ○ □ △ ☆ · ○ ○ ○

1991 8 1 - 1991 10 31

(NAGOYA UNIV)

第1図 微小地震の分布 (1991年5月1日~1991年10月31日) 震源の深さが20km未満のもの

Fig. 1 Epicenter distribution of earthquakes (May 1, 1991 - Oct. 31, 1991) shallower than 20 km.

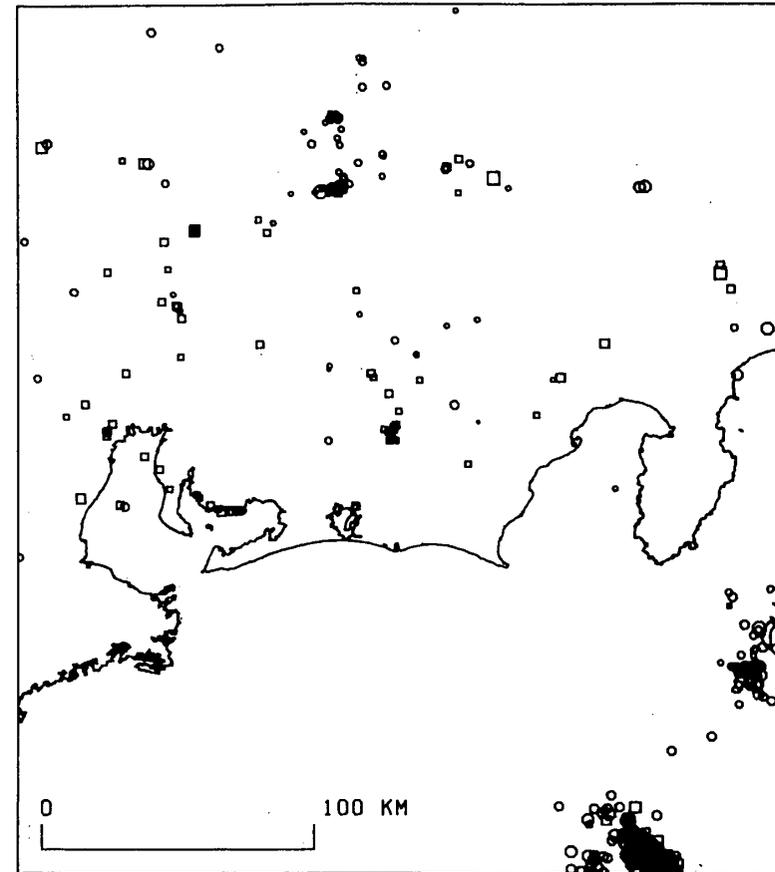


N = 199

DEPTH 0 10 20 KM
○ □

MAG. 1 2 3 4
• ○ ○ ○

1991 5 1 - 1991 7 31



N = 359

DEPTH 0 10 20 KM
○ □

MAG. 1 2 3 4
• ○ ○ ○

1991 8 1 - 1991 10 31

(NAGOYA UNIV)

第2図 微小地震の分布 (1990年11月1日~1991年4月30日) 震源の深さが20km以深から80km未満のもの

Fig. 2 Epicenter distribution of earthquakes (May 1, 1991 - Oct. 31, 1991) deeper than and equal to 20 km.